

「エコと経済」の両立は不可能ではない

中国人民大学学生代表

見学日時：2017年6月6日（火）9:30-11:30

見学場所：ホテルニューオータニ東京

見学概要



訪日団の最後の見学場所はホテルニューオータニで、担当スタッフの案内の下、私たちは同ホテルのエネルギー制御施設、水処理施設、生ごみ処理施設を見学し、それら施設に関する解説に耳を傾けた。中でも水処理施設や水の循環のプロセス、そして生ごみからの堆肥作成と環境に優しい食品のサプライチェーンについて重点的な紹介があった。そして見学の最後にはホテル内の日本庭園を見学し、都会の中の自然の素晴らしさを体験した。

なぜですか？

問：ホテルニューオータニの新しさは何処に表れているのか？

答：一般的に、ホテルにおける新しさは、建物自体の新しさ、装飾の新しさ、サービススタッフの新しさに表れるが、より高度なものとしては理念の新しさがある。ホテルニューオータニは日本のホテル業界のトップとして豊富な資金力を有しているが、社会の発展プロセスにおいて、同ホテルは利益の追求を至上命題としてきたわけではなく、経済効率と環境保護、資源の節約を組み合わせ、持続的発展が可能な経営路線を歩み、真に企業の社会的責任を果たしており、一見「魚と熊の掌（両立不可能の意味）」である経済効率と環境・資源における調和を実現し、互いに補完し合っている。



問：環境への優しさは本当に経済効率をもたらすのか？

答：ホテルニューオータニにおけるエネルギー制御と資源の循環再利用は、同ホテルの管理・運営における大きな特徴であり、これら環境対策は企業の社会的責任の実行と同時に、ホテルニューオータニにより良い経済効率をもたらしている。担当者の紹介によると、水の再生の項目のみで、年間200万人民元相当の経費を節約しているとのことである。こうしたことから、「澄んだ水と青い山こそ金山・銀山である」という言葉は確かに道理にかなったものだと言える。

感想

魚と熊の掌は両方同時に得ることはできない、かつて多くの人がこの言葉を使い環境保護と経済発展の関係を表現してきた。しかしホテルニューオータニのエコ施設の見学を終え、「グリーン経済」は机上の概念ではなく、目の前に実在していたことがわかった。

ホテルニューオータニは水処理施設を自ら建設し、廃水を利用可能な水に再生し客室のトイレやローズガーデン用に活用している。水処理施設そのものについては私たち人民大学の環境学院の学生二人にとっては馴染みがあり、彼らはかつて北京高碑店の污水处理場を見学したことがあった。だが、こうした施設が財政の支援を受ける污水处理場ではなく一ホテルにあることに、彼らは非常に啓発を受けたようだった。多くの場合、私たちは財政がどのように市場と提携し、環境保護・資源節約関連プロジェクトに融資をし、プロジェクトの実行を推進するかを考えがちである。しかし、考え方を換え、一部の環境対策プロジェクトを完全に企業へ移行することも可能だと考えられる。例えばホテルニューオータニでは、水の再生により毎年約200万人民元の経費を節約しており、企業の運営コストの削減のみならず、水資源の節約にも貢献している。中国の企業、特にサービス業においては、廃水の汚染度合が工場よりも低いため、このような水の再生技術を使い企業自身の経費節約をすることはできないのであろうか。政府は優れたPPPモデルの構築、公共事業の発展の推進以外にも、企業の公共事業への依存からの脱却を推奨し、廃棄物を循環利用することで将来のために資源を残す必要がある。

資源以外の面では、環境に優しい食品のサプライチェーンについても大きな啓発を受けた。ホテルニューオータニでは生ごみへの集中処理を行い、堆肥設備により生ごみを肥料とし、食品供給業者へ提供し、業者はその肥料を使い作物を栽培しホテルに提供という循環を形成している。こうしたモデルは双方の経費節約のみならず、ホテルにおける食品の安全をより良く保証している。仮に上述の資源の節約が正の外部性を有し、直接的に後の世代に幸福をもたらすとすれば、「生ごみ-肥料-食糧供給」のモデルは間接的に社会全体に幸福をもたらしていると言える。

日本の社会全体には、環境の保護や資源の節約に関して私たちが学ぶべき点が沢山ある。例えばハイブリッドカー、電気自動車の幅広い利用、都市の緑化における自然回帰、生態ルールに基づいた管理、ごみの分類回収等、これらはいずれも政府・企業・市民の三者の協力による環境保護への努力を反映している。

現在、持続可能な発展の理念が世界的に認められ、汚染の後に対策を講じるという発展方式は今後増々立ち行かなくなっていく。中国経済のニューノーマルにおいて、環境保護と経済発展の両者の間は単純なゼロサムゲーム、トレードオフの関係ではなく、新たな理念・技術を通じてうまく調和させることで共に発展させることは可能なのである。マクロ経済の転換という契機を利用し、経済発展におけるグリーン化を確実に推進し、環境保護と経済発展を「魚と熊の掌」から国の発展における両翼・両輪にしていく必要がある。